

3 県内の産業活性化と新事業創出に向けた取り組み

大規模商談会「TECH BEAT Shizuoka」の開催

静岡県 | 静岡銀行

地方銀行と地公体が連携し、県内最大級の大規模商談会が実現。地元企業と先端技術を有するスタートアップ企業の協業を通じ、オープンイノベーションを加速させることで、県内の産業活性化と新産業創出を目指す。



富士山 (Microsoft Bing)



静岡県の概要

【人口】3,602,209人(2021年4月1日時点)
 ・静岡県は、製造品出荷額が全国第4位の日本有数の工業地域。ホンダの発祥地で、スズキ、ヤマハ発動機の本社があり、オートバイ、ピアノ、プラモデルの輸出量では日本一を誇る。また、全国一の水揚げ額を有する焼津漁港や、静岡茶も有名であり、第一次産業も盛ん。
 ・富士山、熱海、伊豆等の多くの観光地があり、毎年多くの観光客が訪れている。

大規模商談会の開催

静岡県は、多様な産業が集積し、全国有数のものづくり県として知られているが、県内企業の持続的成長の観点からは、自前主義を脱却し、他社との協業により新たな付加価値を生み出すオープンイノベーションの実践を促進することが課題となっていた。

こうした問題意識を受け、静岡銀行は、静岡県等とともに、2019年より大規模商談会である「TECH BEAT Shizuoka」を開催。これは、県内企業とAI・IoT等の先進技術や斬新なソリューションを有するスタートアップ企業とをマッチングさせ、県内企業の新事業創出・事業拡大や、県内経済の活性化を目的としている。

このマッチングイベントでは、商談だけでなく、先進的な知見を持った有識者からの基調講演や、スタートアップ企業からのプレゼン、協業事例の紹介などから構成されており、これまで5回開催している。



「TECH BEAT Shizuoka」第1回の様子 (TECH BEAT Shizuoka Facebook)

協業による新製品の開発

第1回の「TECH BEAT Shizuoka」は、全産業を対象として、2019年7月に2日間にわたり開催。1,086社3,300人が来場し、商談件数は440件、契約件数は25件となるなど、地元企業とスタートアップ企業による協業事業が複数誕生している。

例えば、地元のお茶の卸・販売会社(丸山製茶㈱)と、東京のIT企業(㈱LOAD & ROAD)が連携し、同IT企業が有するテクノロジーを駆使して、飲み手の体温・心拍数や外気などの条件を分析し、その結果をもとに茶葉の量や抽出時間を自動で判断、最適なお茶を抽出する機能を搭載したティーポットの共同開発が実現。スマートフォンアプリと連動し、自宅やオフィスで体調や気分にあった最適なお茶を味わうことができる。現在、両社はティーポットに最適な独自茶葉の開発に着手している。



テクノロジーを駆使して自動で最適なお茶を抽出するティーポット (LOAD & ROAD ホームページ)

また、同イベントを契機に、県内の通信販売・物流代行会社(㈱スクロール)と、VRコンテンツの開発を行うIT企業(㈱スペースリー)の商談も成立。物流倉庫内の様子をVRを用いて可視化することで、遠隔地からでも倉庫内を360度把握することができるようになり、物流代行事業の営業の効率化が実現している。

その他、地元企業(㈱江崎新聞店)と鍵システム開発会社(㈱Bitkey)との協業では、シェアオフィスやインキュベーション施設の個室の鍵をアプリ(デジタルキー)で共有・受け渡しを行う仕組みを導入。鍵の管理や対面での授受が不要となり、業務の効率化に繋がっている。



スタートアップ企業がブースに分かれ商品・サービスをPR (TECH BEAT Shizuoka Facebook)

静岡銀行、静岡県の取り組み

静岡銀行の担当者によると、「2020年3月の分野別農業版以降は、コロナ禍のためオンラインで開催していますが、オンラインでのコミュニケーションが円滑に進まず、商談の進め方に苦労した場面もありました。こうした反省を踏まえ、2021年2月のイベントでは、事務局がコーディネーターとなり、事前に県内事業者の課題を把握し、協業先となり得るスタートアップ企業を推薦する取組みを試行しました」と、工夫して運営を行っている様子が窺える。

「今後は、「リアルとオンラインの融合」をテーマに、双方の利点を活かしたビジネスマッチングの促進に努めていきたい(静岡銀行)。銀行と地公体が連携し、オープンイノベーションを加速させていくことで、地域の未来を切り拓く取組みが続いている。



「TECH BEAT Shizuoka」第1回の様子 (TECH BEAT Shizuoka Facebook)

Column

「しずおかキッズアカデミー」の開催を通じた郷土愛を持つ次世代人材の育成

静岡県は、2020年度の県外流出人口が4,395人(総務省 住民基本台帳報告書)となり、このうち多くを占める15~24歳の若年世代は、進学や就職を機に県外へ流出している。

こうした状況下で、静岡銀行は、人口流出に歯止めをかけるため、地方公共団体、地元教育委員会、地場企業等と連携し、「しずおかキッズアカデミー」を開催している。

「しずおかキッズアカデミー」は、地域の未来を担う子どもたち(小学生)に、大学進学後も地元へUターン就職するなど「地元に戻ってきたい」と思ってもらうことを目的に、地域の産業や特産品などを学ぶ機会を提供するもの。2016年度の取組みを皮切りに、県内各地でこれまで全18回開催し、のべ1,761名の親子が参加。毎回定員を上回る応募があり、人気を集めている。

2020年10月に開催した「しずおかキッズアカデミー@伊東」では、地元のレストランシェフ協力のもと、伊東市の昔からの特産品である「海産物」と新しい特産品である「オーリーブ」を使った、パスタを作ることで、五感を通して地元の魅力を学んだ。

また、2021年に3月に開催した「しずおかキッズアカデミー×元気!しずおかん in 松阪屋」は、静岡の特産品の生産現場から販売まで、商流を楽しく学びながら、松阪屋で販売の実体験をする取組みとして、3年連続で開催している。コロナ禍において、開催方法をオン

ラインに変更し、生産現場の様子を動画で配信した。販売体験は、松阪屋の販売員から接客を学ぶ「おもてなし講座」と、事前に動画を視聴した子どもたちからの質問に対し、生産者から回答する形式で実施した。

「地公体や地場企業と連携し、県内各地の特徴にあったテーマを選定し、子どもたちにとって魅力的な経験となるように体験学習を織り交ぜながら、地域産業に触れる機会を提供しています。参加した子どもたちが将来就職する際に、地元へUターン就職をもらい、人口が流入に転じることを目指しています」と期待を込める(静岡銀行)。



「しずおかキッズアカデミー@伊東」における特産品を使ったパスタ作り体験 (静岡銀行提供資料)